

氏が2頭採集された。一応記録として報告しておき度い。標本は同氏の御好意で筆者が保管している。

イシガケチョウの思い出

松 本 健 嗣

1959年9月26日名古屋を中心に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風、阪神地方でもかなりの風雨であったがその翌々日28日秋晴れの日豪雨で荒れた山径を辿って摩耶山へ登った。山上の展望台広場を占拠しているツマグロヒョウモンを採集して、ふとロープウェイ駅の上空を見上げるとゴマダラチョウ春型を一廻り小さくしたような白っぽいタテハチョウが威勢よく飛び廻っている。粉れもなくイシガケチョウであった。その後10月3日今度は和泉山脈岩湧山へ行った。南麓の根古谷を進んでゆくと此処でもイシガケチョウが4・5頭杉木立の上を活発に競飛していた。だが先日と同様たゞ啞然と見上げるばかりであった。神戸摩耶山では1966年6月30日にふたゝびこの蝶を見ている。

以上が私のイシガケチョウ採集失敗記録であり、他に近畿中北部では見たことはない。その当時私はガイドブック等を読んで本種(*Cyrestis thyodamas*)はクロコノマチョウと共に近畿中部でも稀ではないものと思っていた。だがその後はクロコノマ程採集例を聞かない。大阪の知人の話では和泉山脈方面でも1960年代に入ってからサッパリ見られなくなったと云う。神戸での本種の採集例として手許にある文献では京阪神の動物(東 正雄 六月社)には1961年7月23日六甲山、1948年摩耶山での記録が載っている。また1938年の昆虫界には1936年須磨一ノ谷で2頭とれたことが記されている(横山光夫)。

アオスジアゲハ冬至に屋外で羽化

松 本 健 嗣

昨年(1982)の立冬以後はたいへん暖く、一向に冬らしくない陽気が続いたが12月22日冬至の日正午過ぎ神戸市中央区国鉄元町駅南側の街路クスの根元で横倒しになりかすかに翅を震わせているアオスジアゲハを拾った。ストーブのそばに置いたところ、やがて翅を半開するに至ったが付属肢を動かす迄には至らなかった。正常の春型で翅は完全に伸長していた。

当日の天候は曇りで早朝の最低気温は7.4度Cで発見当時同所では10度Cくらいであったと思う。因に神戸での11月の平均気温は14.7度C、12月に入ってから8.7度Cで例年よりもかなり高かった。それでも12月6日には日中の最高気温6.8度Cでかすかに粉雪が舞っている。その後11日には南風により17.7度C迄上昇したが、19日には最低気温0.4度Cを記録している。もっともこれらの数値は山手の高台にある神戸海洋気象台での測定によるものであり羽化地点は高架により北西風が遮ぎられ、南側は広い車道で日当りは良好。それに空気が汚いので暖かい日溜りなのだろう。それとこの不時羽化との因果関係は無論私には知る術もないが何かの参考にと報告させて頂く次第である。

宝塚市におけるセマダラナガシクイの採集記録

新 家 勝

本誌第9巻第1号以来、報告している宝塚大橋照明燈での蛾の採集の際、他の昆虫についても一部調査している。今回は、それらの昆虫のうちからセマダラナガシクイについて報告する。

セマダラナガシクイ *Lichenophanes carinipennis* Lewis は、体長10ミリ余、黒褐色で、前胸背には粗大な瘤起と点刻を有し、鞘翅にも粗大な点刻を有する特異な形状の甲虫である。これまで兵庫県下での採集記録は僅かであるとのことであるが、筆者は宝塚大橋における蛾の採集の際、次の通り幾度か本種を採集している。

1. 1979. 6. 1 宝塚市南口2丁目

宝塚大橋照明燈に飛来し、欄干に静止しているところを採集したもので、標本は筆者が保存している。

2. 1982. 6. 1 宝塚市南口2丁目

採集時の状況は前述1と同様であった。種を確認しただけで標本化しなかった。

3. 1982. 7. 8 宝塚市武庫川町

前述2と同様。